

## 「明るい2024年を願って！」



宇治電化学工業株式会社  
取締役社長

川村進一氏

あけましておめでとうございます。今年も労務管理者協議会の運営にご協力をよろしくお願いたします。

長い期間、デフレ基調の経済からインフレ基調となってきており、官製主導ではありながら、大幅な賃上げの要請も強くなってきており、今までにない決断なども必要な難しい一年になるかと思われま。今年も会員相互も含め、研究や情報交換を重ねて、各社最適な労務管理施策が展開できるように研鑽していきましょう。

さて、ここからは雑感。

私の野球好きはご存じかと思いますが、昨年の野球（特にプロ野球）においては、興奮の連続の一年でした。WBCの優勝、阪神タイガースの優勝、（小さくU18の馬淵ジャパンの優勝）、大谷選手の移籍etc. 気分を害される方もいるかとは思いますが、特に阪神タイガースの優勝は喜ばしい限り。これほどまでにストーブリーグを心穏やかに過ごせるのは、いつ以来だろうか。ただ、無念なのは、いろいろと画策したにもかかわらず、万策尽きて、甲子園球場に馳せ参じる機会をつくれなかったこと。あの歓喜（狂気）の場に身を置けなかったことが悔やまれる。ちょうど、クライマックスシリーズ時期、大阪出張と重なっており、夜は予定を入れずに方々をお願いしたのですが、どこからも吉報は訪れず、結局はお客様と共にライブ配信しているバーで雰囲気味わうだけとなった（当然飲みすぎたのだが…）。ファ

ンならわかると思うが、耐え忍ぶ年月が長かった分、次いつ訪れるかを考えながら、パイナムで慰めるしかなかったのが悲しい。

岡田監督には足を向けて寝られない。大きな補強がない中での優勝。いろいろと新聞など報道で多く語られているからいちいち触れることはしないが（ファンならいちいち確認しつつニヤニヤが止まらない）、一つだけ言うとするならば、

昭和の野球が帰ってきた感がある勝利はなんだか格別。“フライボール革命”（簡単にいうと、アッパーシングでホームラン狙ったほうがいいよ）が主流の平成・令和の時代に、本塁打はノイジーの偶然の2発だけで日本シリーズを勝ったのは痛快としかいえない。今年の中継を見ている“ここでそのまま打たすのだろうか”、“ここで盗塁か！”、“ここでスクイズ!!”、と見ていて飽きさせないし、劣勢の展開でも楽しませてもらった。昭和の野球の醍醐味を存分に味わせてもらった。

ひと昔前なら、地上波で中継がなければ諦めていたが、今はネットの時代。今年の夏以降、夜な夜な、なんとか阪神戦のライブ中継を見たくてネットサーフィンし、今では虎テレ（阪神のネットTV）は契約続行中。

スポーツニュースなどでは、阪神の黄金時代到来、などと浮かれている。38年間の中には暗黒時代もあり、大差で勝っている場面でも“いつひっくり返されるのか”とひっくり返されないことをお祈りしながらネガティブにナイターを見ていたファンとしては、アレンパと浮かれることはできない。

八番の木浪が出塁して、九番が送りバントで、一番二番の近本・中野が返す。四番大山が四球でチャンス拡大と思い出すだけで心躍る2023年。今年も美味しいお酒が飲めますように。